

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第13号

2005年6月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://homepage3.nifty.com/biotope/index.html>

発行責任者： 篠崎 将

Tel/Fax: 04-7173-6353

泥んこになって田植え

水田稲作部会

今年も田んぼに水が入り、5月4日に増田さんの耕運機を入れて「代掻き」を行いました。(右写真)9日には朝9時から、名戸ヶ谷小学校5年生66名、6年生55名、学年担任4人、の他白井教頭、PTAの中原さん(5年父母)も参加し、増田さん夫妻の指導を受けながら田植えをしました。ビオトープを育てる会からは増田さん夫妻を含め8人、他に市の環境保全課からも2名が参加し、柏インフォメーションセンターの川船さんも取材に見えていました。



田圃は蛙の鳴き声が盛んで、アメンボウ、クモ、トカゲの姿に気味悪がったり、はしゃいだりしながら、みんな泥んこになって作業し、田植えは約1時間で終了しました。その後、物置小屋前の空き地に座り、棚野先生の司会で行われた反省会で田植えの感想を出し合いました。

昔は全部の田んぼを手で植えたと思うと「凄いことだったんだなあ」とつくづく思います。秋の収穫が楽しみです。今年は桜も遅れましたが、天候があまり期待できないようです。これからは植え直し、雑草とり、草刈など稲の成長にあわせて作業を進めていきます。皆さんも稲の成長と田圃の生きものの観察などをしながら見守ってください。(小笠原 智)



泥んこになって田植え

たんぼに足が入り、「うわー！」僕はびっくりしました。外見と違って、田んぼはグニャグニャしていました。たまに足が抜けないことがあり、友達の肩を使わせてもらって、だいじょうぶでした。「ドロは重いんだなあ」と思いました。 広瀬 量平

なかなかできない経験です。名戸ヶ谷小学校の生徒は本当に恵まれているなあ、と思いました。

5年PTA (5年生女子の母親) 中原 益子

最初は嫌だったけど、やっているうちに面白くなって、いっぱいやりました (5年 樋口剛士)

楽しかった。おたまじゃくしを見つけたよ (5年 伊藤祐紀)

気持ちわるかったけど楽しかった (5年 鈴木英里)

ぬめぬめして気持ちよかったけど、転びそうになって大変だった (5年 石井 琢也)

やり方はわかってたけど、まだ田んぼに足をとられたりして、けっこう大変だった (6年 木村一隆)

去年より泥まみれにならなかったからよかった (6年 成島弘勝)

いい環境に恵まれ、子どもたちは幸せです (5年担任 棚野先生)

こんな経験ができるなんて！土に埋もれていく感触は私も一生忘れません (5年担任 安村恵美子先生)

泥に埋まっていくこの感触は楽しかった (6年担任 飯塚先生 *今年4月に名戸小に赴任)

去年より早くできた。みなさんのおかげで怪我もなく終わってよかったです (教頭 白井先生)

不耕起稲作部会

田植え前の準備

水田周囲の溝と大きな畦が完成。

常に水深20cmを保ち、多くの生きものの棲家となり、水田のレベルより20cm低く、水田の水落とし効果が期待できます。

大きな畦は作業・見学に便利。また、植物が育み、動物の棲家となるでしょう。しかし、「子供たちのいたずら」が多くなり、寛容と工夫が必要になりました。

苗は今年も佐原市の藤崎農園へ不耕起栽培用を5月9日に引き取りに行きました。岩澤先生にお会いして、田植えを見学しながら、不耕起栽培の特徴、湖沼の浄化対策、牛糞・豚糞を使った有機栽培の問題など、説明を聴きました。何度聴いても感動と元気を頂きます。73歳。元気でご活躍を祈願します。



田植え

5月11,12,13,15日に田植えをし、のべ28名の参加がありました。13日の田植えには今回初めて名戸ヶ谷小学校5年生66名が学年担任の榎野先生・安村先生と一緒に参加し、不耕起栽培について説明を受けてから、代表5~6名が耕さない田圃に入り、田植えを体験しました。田植えは多くの動植物と共に生かされていることを実感できます。蛙が鳴き、ツバメが顔をかすめて飛び交い、小鳥がさえずる、至福の場です。(オ川 寿磨)



不耕起農法を解説するオ川さん

ひとくちインタビュー より

初体験の感想 (5月11日)

疲れた。腰が痛くなった。(山谷さん)

疲れた。泥に足をとられて動くのに余程疲れた。(田中さん)

名戸小5年生： 不耕起の田植え (5月13日)

前の田んぼより土がやわらかくて、楽しかった(宮崎君)

泥の深さは変わらないけど、こっちの方がやわらかかった(中村君)

水は冷たかったけど、水田の中は泥が暖かかった(中村さん)



学んだことー 田植え後の反省会より

農薬を入れなくても苗が育つんだ、ということ。

不耕起の田圃には小鳥やツバメがいっぱい飛んでくる。

農薬は自然を破壊するから農薬は使わない方がいい。

耕さない田圃がある、ということ。

トキとこの田圃は関係がある。

農薬を使わないほうが自然にいいことを知りました。農薬をなくしていろいろな虫が集まるといいと思います。機会があれば、自分たちでも不耕起農法をやりたいです。

片貝 匡一郎

「耕さない田んぼが環境を変える」と今日教えてくれた人は言いました。それは不耕起農法です。不耕起とは耕さないで去年のままのところに植えることです。耕して農薬を使い、ドジョウやトキも絶滅してしまったそうです。

君 玲奈

生きもの部会

5月21日の定例作業日には、生きもの部会以外から心強い応援参加があり、参加者は8名でした。この日はBゾーンのガマ・ヨシなどの大型植物の新芽を刈り取る作業を行いました。北側湿地については、マコモ以外は全面的に刈り取ることができました。南側深水域については、釣り場とトンボ用水域でのガマ・ヨシの刈り取りを実施しました。6月以降も引き続き大型植物と外来植物の刈り取りを行います。(佐々木光正)



ホタル部会

今年もいよいよホタルのシーズンが迫ってきました。柏地域では主にヘイケボタルが見られますが、だいたい6月上旬から発光を見ることができるようになります。ホタル部会は、ホタルエリアの水路の整備を継続し、水路に蔓延するクレソンを間引くことと、池の水深を確保する作業を行いました。今後の予定としては、今年はピオトープに放流するために柏市内に生息するヘイケボタルを採取・採卵し、幼虫を飼育したいと考えています。これまでカワニナを飼育し、ピオトープに放流していただいている皆様には、ホタルの幼虫の飼育にもチャレンジしていただきたいと思います。ホタルエリアに遮光ネットを張りました。(松清 智洋)



名戸ヶ谷ピオトープ展開催中



5/16 から 6/30 まで、柏インフォメーションセンター（丸井3階）で「自然と人の共生～名戸ヶ谷ピオトープ」展が開催されています。

展示は、なぜピオトープが必要なのか、名戸ヶ谷ピオトープの生い立ちの解説からはじめて、4部会の活動や、名戸小総合学習での稲刈り体験の様子・ピオトープで観察される植物や生きものもパネルや写真で紹介されており、ピオトープの四季を紹介するビデオが常時大画面で映写されています。また、会場奥の壁面には、不耕起田植え用の苗、カダヤシや加コも展示されています。展示は5/23日の千葉日報、5/26日の読売新聞でも紹介されました。

お知り合いの方々にも声をかけて、是非お寄りください。開館時間：9:00 AM～19:00 p.m.

尚、かしわインフォメーションセンターのホームページ([URL:www.86kashiwa.net](http://www.86kashiwa.net)) (篠崎 将・松清 智洋)

天ぷらで昼食会

5月21日の合同活動日には16名が参加し、Bゾーンの草刈、ホタル部会の水路改修作業、不耕起部会の田植え補修作業を行い、終了後、ピオトープで採取した「せり」「クレソン」「ザリガニ」の他に、持ち寄った緑茶や柿の葉、ナス、しいたけ、をネタに天ぷらを揚げ、焼酎を飲みながら手作りの昼食会を楽しみました。影山夫人・オ川夫人からはオムスビや五目飯、自家製漬物の差し入れがありました。親睦を深め合う楽しい昼食会となりました。おすそ分けに、天ぷらを僅かばかり木村トメさんへ届けました。(広報編集部)



ピオトープの生きもの



ナガコガネグモ 真正クモ目 コガネグモ科

体長メス 2~2.5cm. オス 1~1.2cm. メスの背甲はコガネグモ同様白色短毛に覆われている。腹背には黄と黒の白色の毛からなる細い横縞が交互に並ぶ。脚は腿節が赤みを帯びるほかは黄褐色で、黒褐色の輪紋がある。オスは腹背の様子が不鮮明。草や樹間に垂直な円網をはり、中央にさまざまな形の白い隠れ帯をつくる。体に触れると網をゆする。



ノシメトンボ トンボ目 トンボ科

羽の長さ 2.8~3.5cm. 腹の長さ 2.5~3.0cm. 前後の羽根とも羽根の端に黒色のあるのが特徴で判別しやすく、アカトンボのうち最大種。体は赤くなく、ウスバキトンボやシオカラトンボのメスと同様橙黄色に近い。7月から現れるが、9~10月が多い。日本全国から中国中部まで観察される。(篠崎 将)

里山シンポジウム「水循環分科会」で発表

県の里山条例制定を記念して第2回里山シンポジウムが開催され、4月から各地で14の分科会が開催されていましたが、最終日(5月21日)、の「水循環分科会」(於中央学院大学)に出席し、佐倉保夫教授(千葉大理学部)の講演のあと、「名戸ヶ谷湧水と子供たち」というテーマで事例発表を行いました。里山を管理している人からは、水が少なくて困っているという声が多く、名戸ヶ谷湧水は水が豊富で羨ましいという発言もありました。豊かな湧水を大切に利用していかなければならないと改めて考えさせられました。(篠崎 将)



名戸ヶ谷病院看護士寮 - 杭工事完了、根切り中

ピオトープの東側で4月から始まった建築工事は5月28日に現地視察したところ、杭工事は完了、基礎の根切りにかかっていました。懸念されていましたが、工事責任者の話では「特段の地下水の湧出もなく、地下水位への影響はなかったと思う」とのこと。なお、昨年10月に提出した申し入れ書に対しては、「地下水質の汚染等がないよう十分注意する」「緑化は竣工後に長期計画を立てていく」との回答を得ています。(三坂 俊明)

渡良瀬遊水地見学会について

日時: 6月12日(日) 詳細は6/2日頃 メールリストで案内予定

目的: 日本最大の人口湿原、渡良瀬遊水地の豊かな自然を体験する。栃木、群馬、埼玉、茨城の4県にまたがる広大なヨシ原の湿原。絶滅危惧種の植物45種、渡良瀬にしかいない貴重な昆虫(ワタラセハンミョウモドキなど)も観察できます。

問い合わせ先: 松清 智洋 (Tel/Fax:04-7145-6813 E-mail: maz@kashiwa.bounds.net)

編集後記: 田植えを無事に終えた田圃では緑の小さな稲が微風に揺れ、その上をツバメや小鳥が飛び交っています。不揃いなく田植えができたかどうか、チェックしているようです。今回は不耕起栽培の田植えに名戸ヶ谷小児童(5年生)が初めて参加し、環境問題についてもさまざまなことを学び始めたようです。毎月第3土曜日の全体活動も定着し、ピオトープの野草を揚げた楽しい天ぷら昼食会もありました。ピオトープ展も開催中です。あせらず、楽しみながらやってゆきましょう。 広報編集部(春山)